

平成 26 年 2 月 24 日

特定非営利活動法人  
日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス 御中

日本赤十字社

血液事業本部 総括副本部長



「献血参加者への対応に関する公開質問」への回答について

先般拝受いたしました標記の件につきまして、別紙のとおり回答をさせていただきます。

大変回答が遅くなりましたことを深くお詫びいたしますとともに、よろしくご査収くださいますようお願いいたします。

- (1) 現在、厚生労働省では改めて HIV 等の検査目的での献血はしないよう呼びかけているところです。献血会場においては、献血にいらした方の動機について具体的にどのように確認しているのでしょうか。

回答：献血は献血者の方々の善意をもって成立している事業であることから、その動機についてお伺いすることはございません。

ただし、検査目的での献血はお断りしており、受付時にお読みいただくパンフレット「お願い」（別添資料 1）や、問診票（別添資料 2）などを確認いただき、該当する場合には献血をご遠慮いただいています。

- (2) エイズという疾病に対する偏見や誤解がまだ存在し HIV 抗体検査の受検環境が十分整備されていない我が国において、HIV 等の検査を目的の一つとして献血に参加する方は一定数いるものと推測されます。HIV 等の検査については保健所又は医療機関での検査を案内すべきと考えますが、献血会場では、こうした説明や案内をどのように実施されているのでしょうか。

回答：献血会場には保健所のパンフレット（自治体制作のもの）などを設置するとともに、問診時に該当する項目を「はい」と回答する方に対してはその設問の意味や検査目的の献血をお断りしていることなどをご説明した上で、保健所のご案内をしています。

- (3) 男性との性的経験がある男性や HIV 陽性者であっても、友人や職場の同僚等に誘われて仕方なく献血に訪れる場合も想定されます。このような場合、献血会場ではどのようにスクリーニングをしていますか。

回答：献血時の問診環境については献血会場で多少の差はあるものの、個人のプライバシーが守られた状況で実施されます。

しかし、それでも正確なお答えはしにくいという方のために、献血後に電話連絡ができることを明記した用紙（別添資料 3）を全員に配布しています。連絡時にお名前やご住所等の情報は不要で、「採血番号」と「生年月日」を電話（録音）していただければ輸血用の血液としては使用されない仕組みと

なっています。輸血を受ける患者さんの安全のために、心当たりがある場合は必ず連絡してください。

(4) 献血で集めた血液からエイズウイルスが検出された場合でも、その結果は本人には伝えないことが原則となっていますが、実際には伝えている事例も多々あると聞いております。検査結果を本人には伝えないという原則について、献血事業に従事される皆さんには、具体的にどのように周知していますか

回答：日本赤十字社では、献血された血液の HIV 検査は診断を目的として実施するものではなく、輸血用血液製剤の安全性を確保するために行うものであり、通知することに伴うマグネット効果を防止する目的から、献血者への通知を血液事業としては実施していないことを職員に周知しております。

(5) 献血者に検査結果を伝えることは、さらなる検査目的での献血を誘引してしまうと懸念致します。献血事業の従事者が、検査結果を献血者本人に伝えた事例について、日本赤十字社では把握されていらっしゃいますか

回答：HIV 陽性の検査結果を知りえた血液センター所長が、早期発見・早期治療、感染拡大防止の観点から、医師として献血者本人と直接面談し、検査結果をお伝えするとともに、適切な医療機関を紹介している事例については把握しております。

しかしながら HIV 輸血感染事例が発生したことから、献血時に判明する HIV 検査結果の通知のあり方について、国と日本赤十字社で協議しているところです。

なお、日本赤十字社としてはこれからも責任ある献血を強く献血者に求め、検査目的の献血が患者さんに与える影響の大きさを理解していただくための取組みを実施してまいります。貴団体におかれましても、検査目的の献血やウインドウ期の献血を防止し、輸血による HIV 感染者を増やさないための周知活動にご尽力くださいますようお願いいたします。